

2. 経営方針

(1) 経営の基本方針

当社は、摩擦・潤滑・材料技術を基盤として、エンジニアリングの基礎をなす独自性のある製品を時流に先んじて創り出すことでお客様に貢献し、社会の繁栄に寄与することを基本理念としています。また、スピードある「開かれた経営」を行い、株主・顧客・社員の信頼と期待に応え、社会とともに成長発展をめざすことを念頭において経営をいたしております。

(2) 利益配分に関する基本方針

当社は、株主への利益還元と事業の成長および経営基盤の強化のための内部留保を総合的に勘案し、長期にわたり安定的な配当の継続を基本に考えております。短期的には、配当性向30%をめざし、平成15年3月期においては、1株当たり1円増配して17円とし、配当性向は26.3%となっております。

内部留保した資金は、将来にわたる株主利益を確保するため、将来の事業成長のための投資および財務体質の強化に活用してまいります。

(3) 目標とする経営指標

当社は、株主資本利益率(ROE)を6%超にすることを目標としております。'01年9月の公募増資の実施によりROEが低下いたしました。次の(4)中期的な経営戦略で述べております方策を着実に実施し目標達成をめざします。

(4) 中期的な経営戦略

2000年より取り組んできました中期経営計画は完結し、進めてきました「四つの挑戦」(海外展開、製法の刷新、新製品の開発、営業の開発)はそれぞれ大きな成果を上げつつあります。

海外展開では、昨年は4月にハンガリーで、5月にインドネシアと韓国で新工場を立ち上げ、9月には米国大手自動車部品メーカー「フェデラル モーグル コーポレーション」との合弁会社を設立、10月には中国ではトップレベルの軸受メーカー「煙台春生滑動軸承有限公司」を買収し、世界四極での生産・販売体制の基礎固めをしてきました。

製法の刷新では、画期的な製法を取り入れた銅系軸受素材ラインに続いて、アルミ系素材の新圧接法等による生産が始まり、新製品の開発も環境に対応した鉛フリー軸受、樹脂系コーティング材料の展開が進みました。営業の開発においても東南アジア全体での情報拠点として、昨年5月にタイ国・バンコク市に駐在事務所を開設いたしました。

今年「四つの挑戦」をさらに推し進め、次なる発展に向けた'03～'05年の新中期経営計画を策定しました。中期経営方針は「独自技術と信頼により大競争時代を勝ち抜く」とし、スローガンを「スピードと変革」といたしました。当社は「第3の道をめざす企業」(独自技術を持つ提案型の部品メーカー)として、世界の顧客および市場にとってなくてはならない信頼ある製品を創出し続けることによって発展してまいります。

そのための主要な施策として、以下を実施いたします。

「環境」「安全」「品質」における業界NO.1への挑戦

一歩先を行く独自技術の開発と新製品の創出

世界の顧客をターゲットとした戦略的営業の確立

世界の競合メーカーを凌駕する、あらたな「モノづくり」の手法確立

世界に通用する「人づくり」・「システムづくり」

(5) 会社の経営管理組織の整備等

当社は、東証1部上場(平成13年3月)を契機に、コーポレート・ガバナンスの一環として、「コンプライアンス」の周知徹底を図るために、法務機能を担当する部署を設置し、行動指針・社内規定および業務の再チェックを実施しております。加えて、役員・管理者等を対象にした社外講師による講演会の実施、各部および子会社に設けたコンプライアンス担当との「コンプライアンスネットワーク」による事例研究等の研修会の実施など、法令の精神を守る全社的な啓蒙活動を実施しております。

さらに、今年度は企業倫理・法令上のリスク未然防止を図るために、「コンプライアンス委員会」の設置および「リスクホットライン(相談窓口)」の設置等の施策を展開しております。

(6) 関連当事者(親会社等)との関係

当社は、トヨタ自動車株式会社の関連会社(間接所有を含む議決権の割合が39.8%)であります。取引関係では、当社の売上高のうち、トヨタ自動車株式会社の比率は52.6%であり主要な顧客であります。人事面でも役員招聘、幹部社員の転籍等により、急成長する当社の経営組織に対し人材の充足強化を図っております。今後とも、トヨタグループの一員として、トヨタ自動車株式会社ならびにトヨタグループ各社と良好な関係を継続していく考えであります。